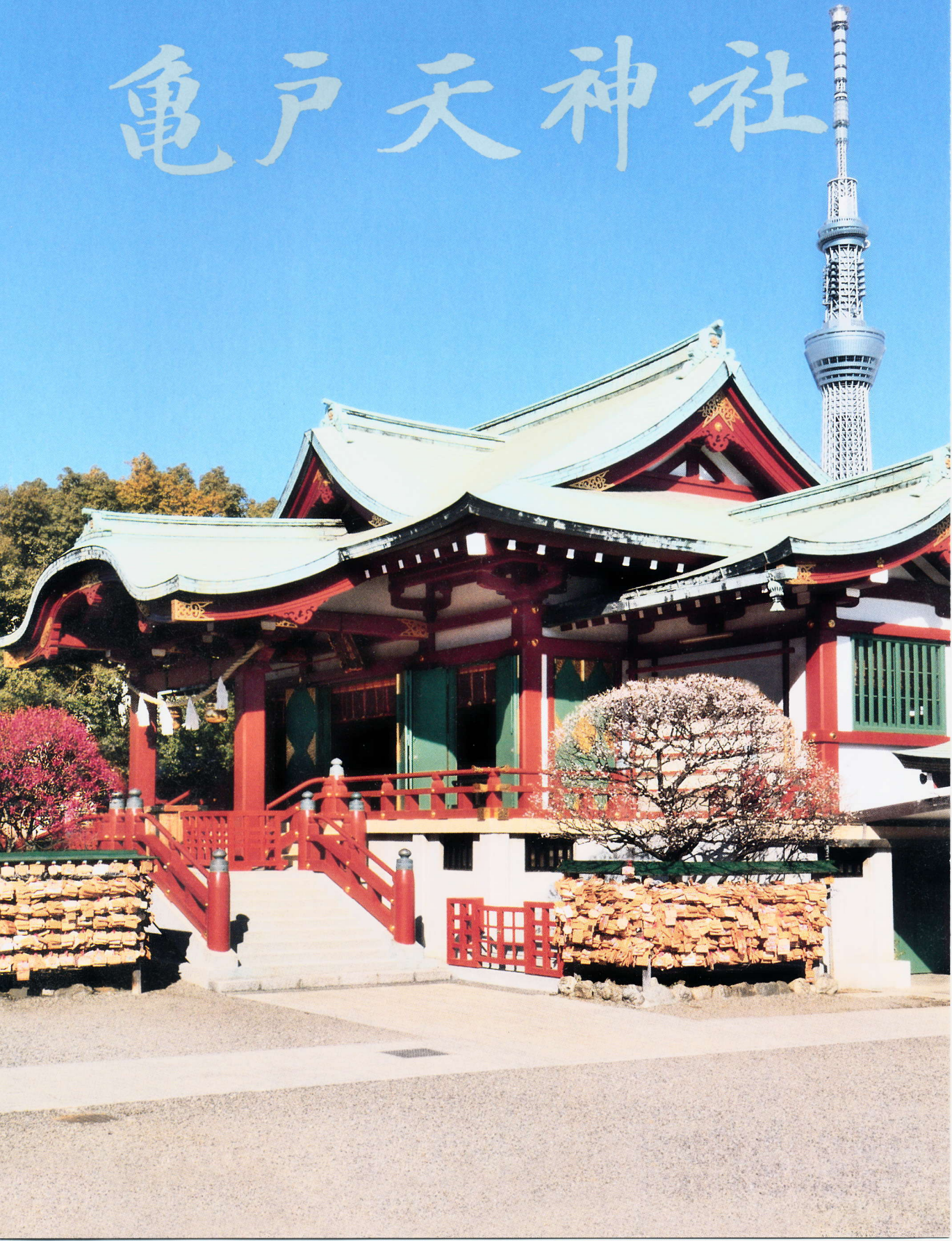


# 亀戸天神社





天満大神（菅原道真公）、天菩日命（菅家の祖神）を奉祀する亀戸天神社は一般には広く「亀戸の天神さま」「亀戸天満宮」と呼ばれ、親しまれております。

古くは東宰府天満宮、本所宰府天満宮、あるいは亀戸天満宮と称されておりましたが、明治六年に東京府社となつてより亀戸神社と号し、昭和十一年亀戸天神社と正称いたしました。

御祭神・菅原道真公は、承和十二年（八四五）六月二十五日、京都菅原院（烏丸通り）に誕生され、幼少のころから学才にすぐれていたことは並々ならぬものがありました。御年五歳にして

美しや  
紅の色なる梅の花  
あこが顔にも  
つけたくぞある



と詠ぜられるほどの卓抜な才能を発揮したと伝えられ、やがて帝の御覚えもめでたく、次第に重用され、重要な政務を任命され、のち正三位右大臣兼近衛大将に進み、さらに御年五十七歳で従二位に昇叙せられました。

政見に対するすぐれた才能と相まって、菅公は多くの漢詩や和歌を作られ、『類聚国史』や『三代實録』の撰修をはじめとする学問上の功績は、わが国の歴史・文学の上にさん然と輝いております。

しかし当時権勢を誇った藤原氏の讒言にあつて延喜元年（九〇一）に大宰権師として九州大宰府に遷せられました。

その時、住み慣れた紅梅殿の庭前の梅を見て

東風吹かば  
匂ひおこせよ 梅の花  
あるじなしとて  
春な忘れそ

と詠ぜられたことはあまりにも良く知られております。

大宰府にあつては天を恨まず人を怨まず、ひたすら清節のやがて現われることを期しましたが、そのかいもなく延喜三年（九〇三）二月

二十五日梅香の大宰府に誠心の一生を閉じられました。御年五十九歳のことでした。薨去後、人々は菅公を神として讃仰し、近世に至つてはことに学問の神として信仰を集めております。

正保年間、九州太宰府天満宮の神人菅原信祐（道真公の裔孫）は霊夢に感じ、菅公ゆかりの飛梅で神像を刻み、社殿建立の志願をもって諸国を廻り、寛文元年（一六六一）江戸に達し本所亀戸村にあつた天神の小祠に奉祀いたしました。

時あたかも徳川幕府の大事業である本所開発にあたり、天神様を崇敬すること篤かつた將軍家綱は現在の地に社地を寄進しました。そして、寛文二年十月二十五日、太宰府の社にならい、社殿、楼門、廻廊、心字池、太鼓橋等を営み、以来三五〇年余後の今日まで、数ある東国天満宮の宗社として尊崇されてまいりました。



#### ●御嶽神社

菅公の教学上の師、延暦寺第十三代座主法性坊尊意僧正を祀る。今もなお「卯の神」として知られ、正月初卯、二の卯三の卯には江戸時代から伝わる卯槌や卯の神札が授与されて火防、雷除、商業繁栄、開運を祈る人々ににぎわいます。

#### ●花園社

菅公奥方および御子十四方を祀る。寛文年間、筑前（福岡県）花園の地より勧請されたもの。安産、子宝・立身出世の守護神として広く信仰されています。先の戦災で鳥有に帰しましたが、昭和四十七年心字池の畔に再興されました。

#### ●弁天社

寛文五年（一六六五）太宰府天満宮心字池畔の志賀社を勧請したもの。時代の移り変わりとともに七福神のひとつである弁天として信仰され、福德福智を増し、開運出世、芸能成就の神として知られています。

#### ●紅梅殿

御本殿と時を同じくして寛文二年（一六六二）に太宰府天満宮の御神木「飛梅」の実生を勧請し社殿前に奉斎したのを起源とし、昭和六十三年に現在地に再建されました。





# 年中行事

歳旦祭	一月一日
新年祈願祭	一月一日〜七日
初卯祭	一月初卯
鶯替神事 <small>うすかえ</small>	一月二十四日
初天神祭	一月二十五日
節分追儼祭	二月三日
梅まつり	二月第二日曜
菜種御供	三月第二日曜
紅梅殿例祭	二月二十五日
神忌祭	三月二十五日
学業講祭	四月二十五日
藤まつり	五月五日
藤花祭	四月二十九日
開基別当祭	五月五日
出世鯉放流	五月五日
花園社例祭	五月第二日曜
更衣祭	五月二十五日
夏越祓 <small>（茅の輪ぐり）</small>	六月二十五日
筆塚祭 <small>（書道上達祈願祭）</small>	七月二十五日
弁天社例祭	八月
御鳳輦渡御祭	八月四年に二度執行
氏子神輿宮入り	八月四年に二度執行
例大祭	八月二十五日
献灯明	八月二十五日
敬老延寿祭	九月二十五日
更衣祭	十月二十五日
菊まつり	十月下旬
七五三祝祭	十一月下旬
出世鯉放流	十一月十五日
新嘗祭	十一月十五日
納め天神祭	十一月二十五日
古神札焼納式 <small>（おたまあげ）</small>	十二月二十五日
大祓	十二月三十一日
除夜祭	十二月三十一日

## 春

●神忌祭  
 亀戸天満宮の春は、境内を美しく彩る松明の明かりでおとずれます。



神忌祭

三月二十五日の春の宵、子どもたちの奉持する松明が幽玄の世界をつくり出す中、菅公に因んだ梅花の神籬を囲んだ「御」が神苑を巡行します。雅やかな音楽も流れるこの一夜は、松明まつり、葬式祭ともよばれ、八月の大祭に匹敵する重要なお祭りです。

## 秋

●七五三祝祭  
 菊の香かおる秋、十一月十五日は、

健やかな一生を願い、開運・出世を祈り、学業向上を祈願する幼な子たちが、晴れ着に身を包んで参詣におとずれます。清らかに伸びやかに、そしてたくましく泳ぐ鯉を



出世鯉放流

「心のふるさと——亀戸天神」との願いが幼な子の一生を見守ります。



七五三祝祭

## 夏

●例大祭  
 東都の夏祭りの終美を飾るのが八月二十五日の例大祭。亀戸天神祭りとして親しまれています。街々の軒先には御祭礼と染め抜かれた提灯がゆらぎ、みこしが練り歩き、下町の祭礼として昔ながらの風情があふれます。また四年に一度の大祭には遠い時代を今にしのぶ御鳳輦渡御祭も行なわれます。



## 冬

●節分追儼祭  
 邪霊災厄を払い、幸福を求め

める行事とされる節分には、古式ゆかしく、追儼といわれる豆打ちが行なわれます。多くの参詣者の無病息災を祈る行事です。



節分追儼祭

●初天神祭  
 御祭神、菅公の御生誕及び御薨去の日が二十五日であるところから、古えから人々は二十五日を天神さまの日として奉守してきました。年初めの天神祭がごそかに営まれる一月が初天神祭です。また、例年お正月には初詣での善男善女でにぎわいます。



初詣







● 藤まつり

春の花、藤が境内一面に咲き誇り、参詣者の心をなごませてくれます。ことに太鼓橋を背景に心字池に映る藤の花は絶世の景観です。なお、学問の神と崇められる当宮では勉強向上を願う人々の学業祈願祭を毎朝行なっておりますが、とくに四月二十五日～五月五日まで学業講祭も行なわれます。藤を賞でながら、学業祈願の参詣者にぎわいます。



うそ

● うそかえ神事

愛らしくかわいい「うそ鳥」の素朴さは人々の心をなごませてくれます。「いままでのあしきもうそとなり、吉に鳥かへん」とのころにて、うそかへといふ」と文政年間から伝えられ、今日もなお盛んに行なわれています。近年は勉強に励む人々のお守りとして人気を集めています。

亀戸天神社

〒一三六―〇〇七

東京都江東区亀戸三丁目六番一

電話〇三(三六八一)〇〇一〇

FAX〇三(三六三八)〇〇二五

【交通】総武線亀戸・錦糸町駅下車

都バス亀戸天神前下車

地下鉄半蔵門線錦糸町・押上駅下車

